

がん関係者アンケート

中間集計

2005年5月28日

がん関係者アンケート： 中間集計の結果

I がん関係者の80%ががん医療の現状に不満であり、また93%が患者の声は医療政策に反映されていないと思っている

II 不満の主な原因は、「保険制度（治療薬の承認と費用）のあり方」と「患者向け情報の欠如」にある。患者向け情報については、がん関係者の99%が医療情報統合機関が必要だと考えている

III がん関係者の大半が、患者の声を政策に反映すべく、積極的な情報提供、政策提言、政策の学習、がん患者団体の連合が必要だと考えている

資料：東京大学医療政策人材養成講座のデータに基づく。

がん関係者アンケート： 中間集計の回答者の属性

中間集計回答者の属性

● 回答者のがんと関係は:

– がん患者	62%
– がん患者の家族	24%
– がん患者の遺族	13%

● 患者会への参加は:

– 現在参加している人が	22%
– 過去に参加していた人が	4%
– 参加したことがない人が	74%

● 回答者の性別内訳は:

– 男性	42%
– 女性	58%

● がんの進行度については:

– 進行がん	61%
– 早期がん	39%

● がんと診断された時期は:

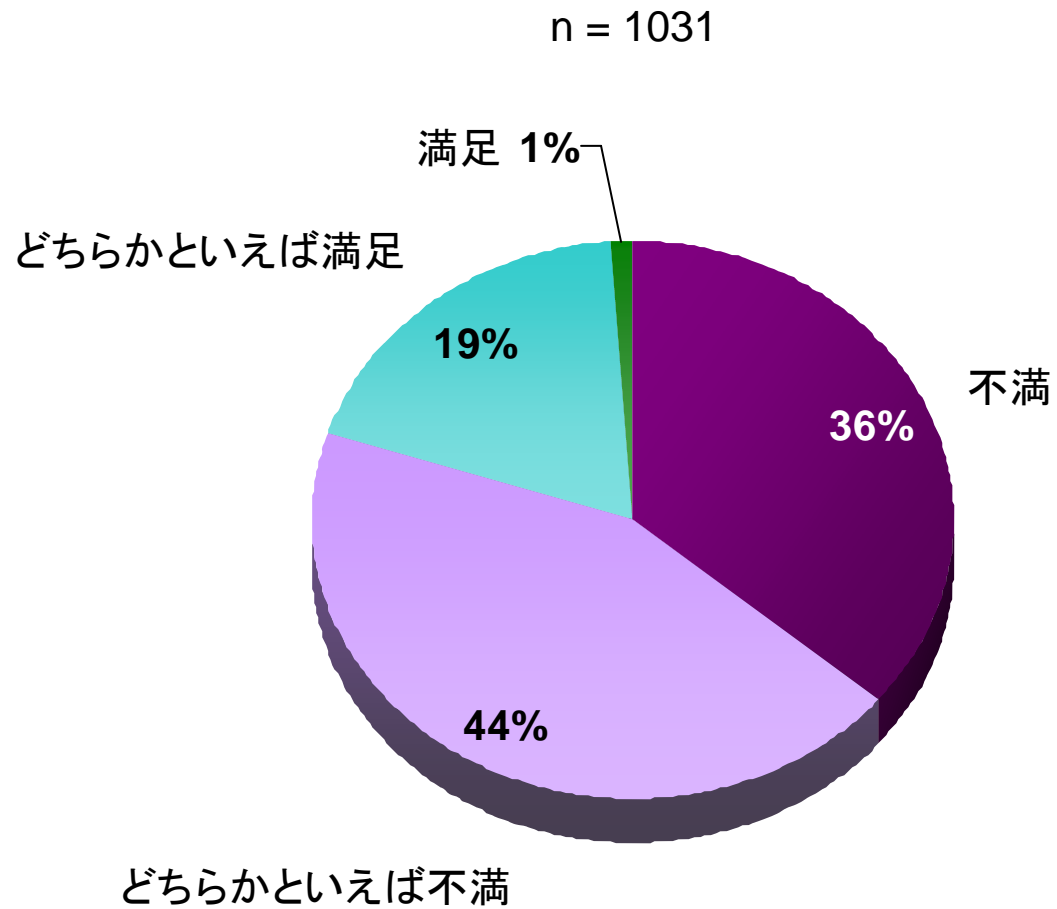
– 2000年以前	27%
– 2001年以降	73%

資料：東京大学医療政策人材養成講座のデータに基づく。

がん関係者の80%が、がん医療の現状に不満である

(%; 2005)

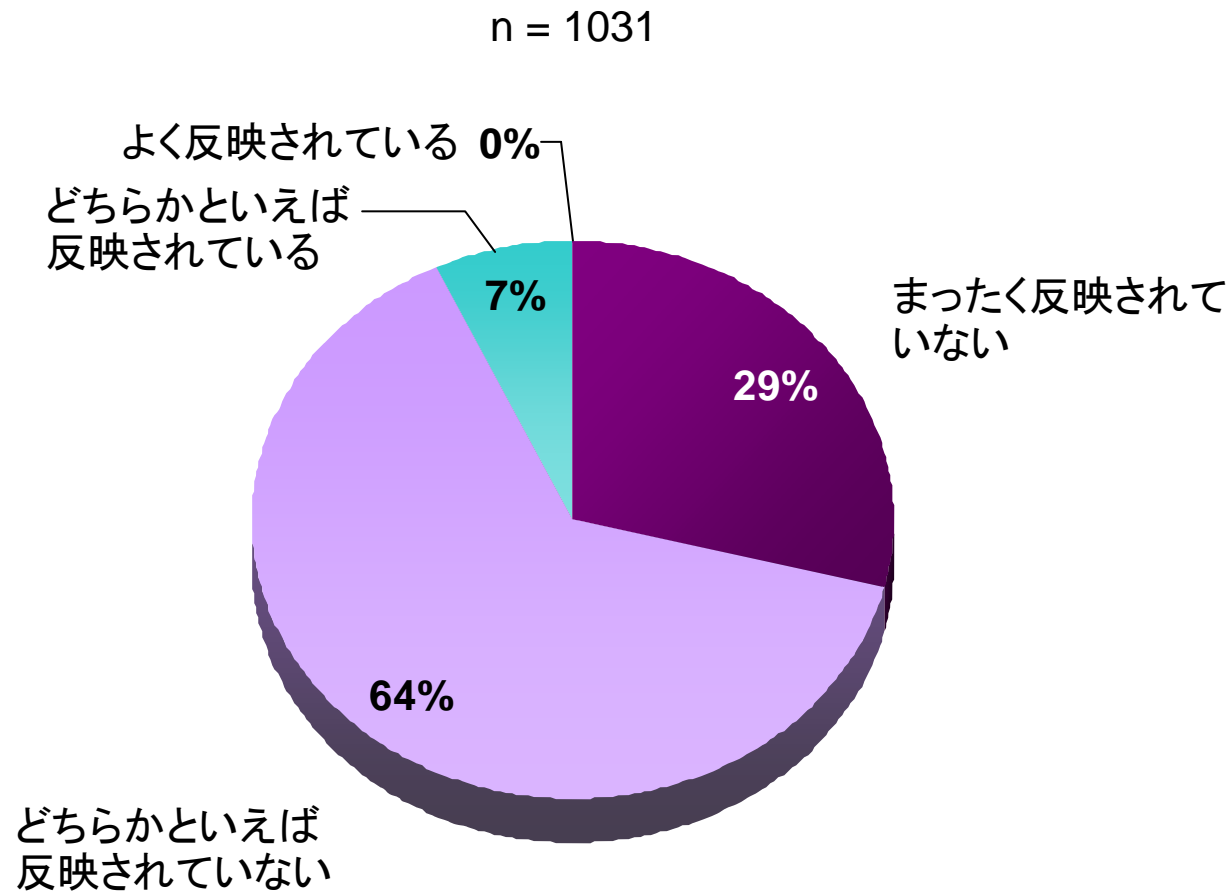
Qu. 総合的にみて、日本のがん医療の水準にどの程度満足していますか



資料: 東京大学医療政策人材養成講座のデータに基づく。

がん経験者の93%が患者の声は医療政策に反映されていないと思っている (%; 2005)

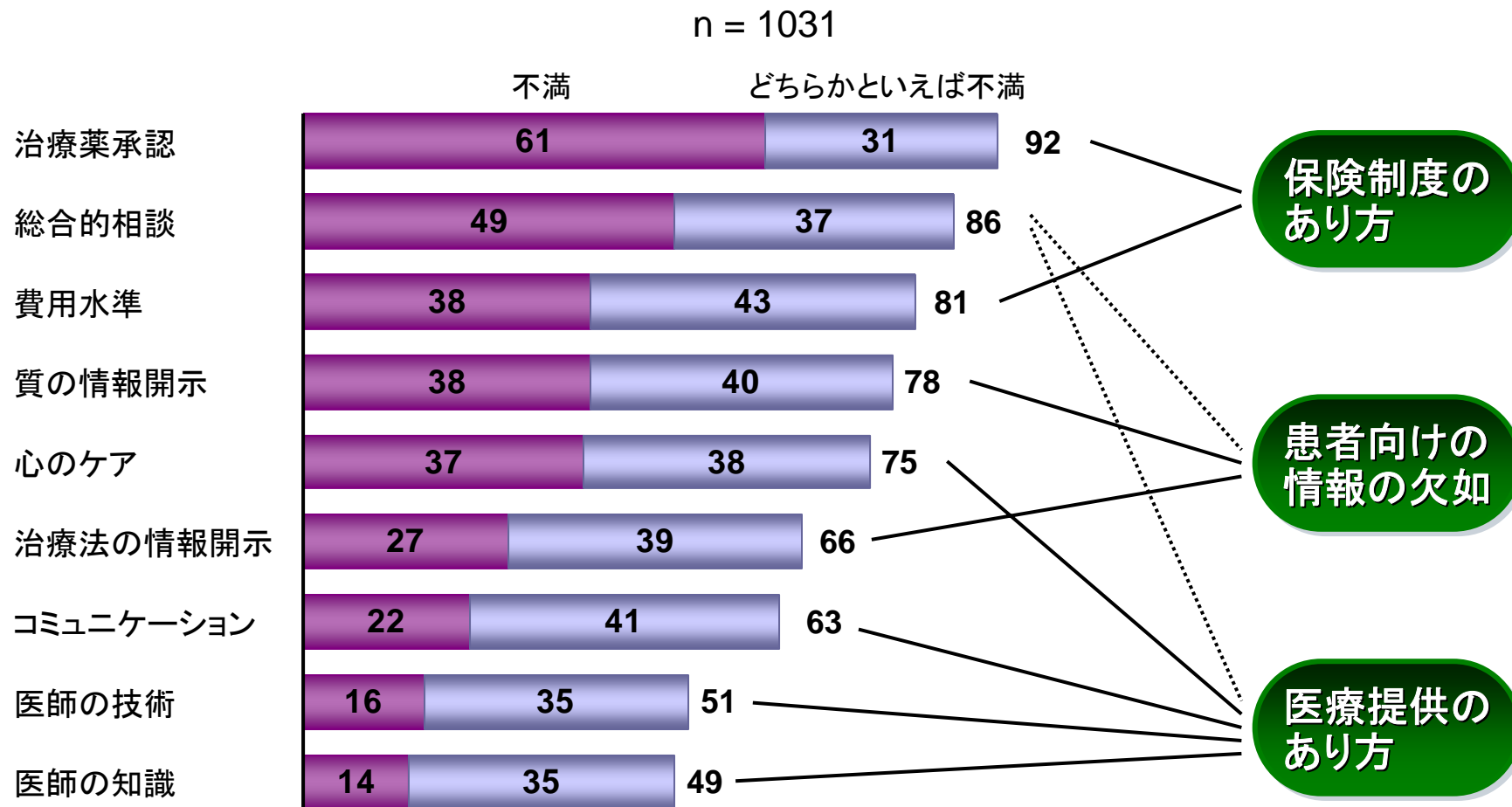
Qu. がん患者の声は、現在どの程度医療政策に反映されているとお考えですか



資料: 東京大学医療政策人材養成講座のデータに基づく。

不満の主な原因は、「保険制度のあり方」と「患者向けの情報の欠如」にある
 (%; 2005)

Qu. 日本のがん医療を改善する上で、下記の要素にそれぞれどの程度不満ですか

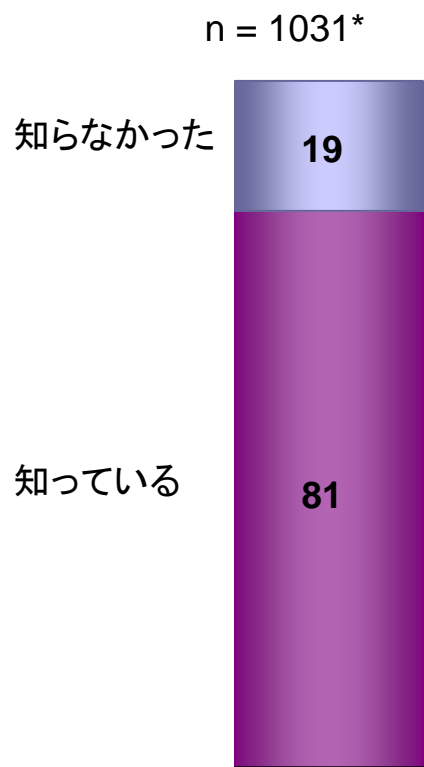


資料: 東京大学医療政策人材養成講座のデータに基づく。

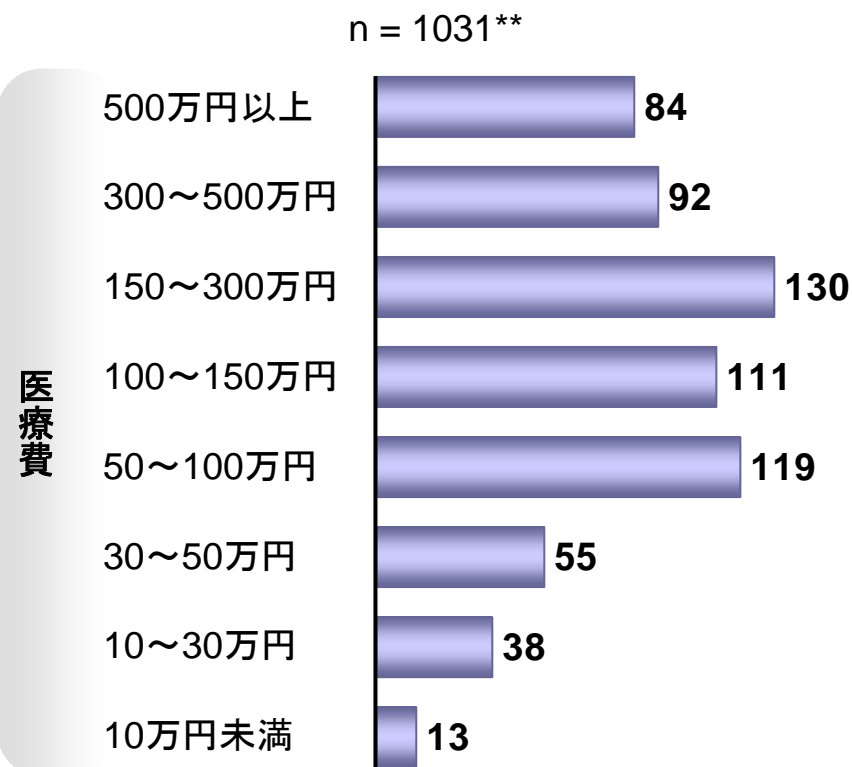
「保険制度のあり方」では、未承認薬の存在と、治療にかかる費用の大きさが問題視されている

(%; 2005)

Qu. 米国など世界的には標準治療と位置づけられている抗がん剤などのがん治療薬のうちかなりの種類が、日本では保険未承認・適用外のため普通に保険診療で使えない状況になっていることを知っていますか



Qu. 治療にかかったお金について教えてください: 合計額



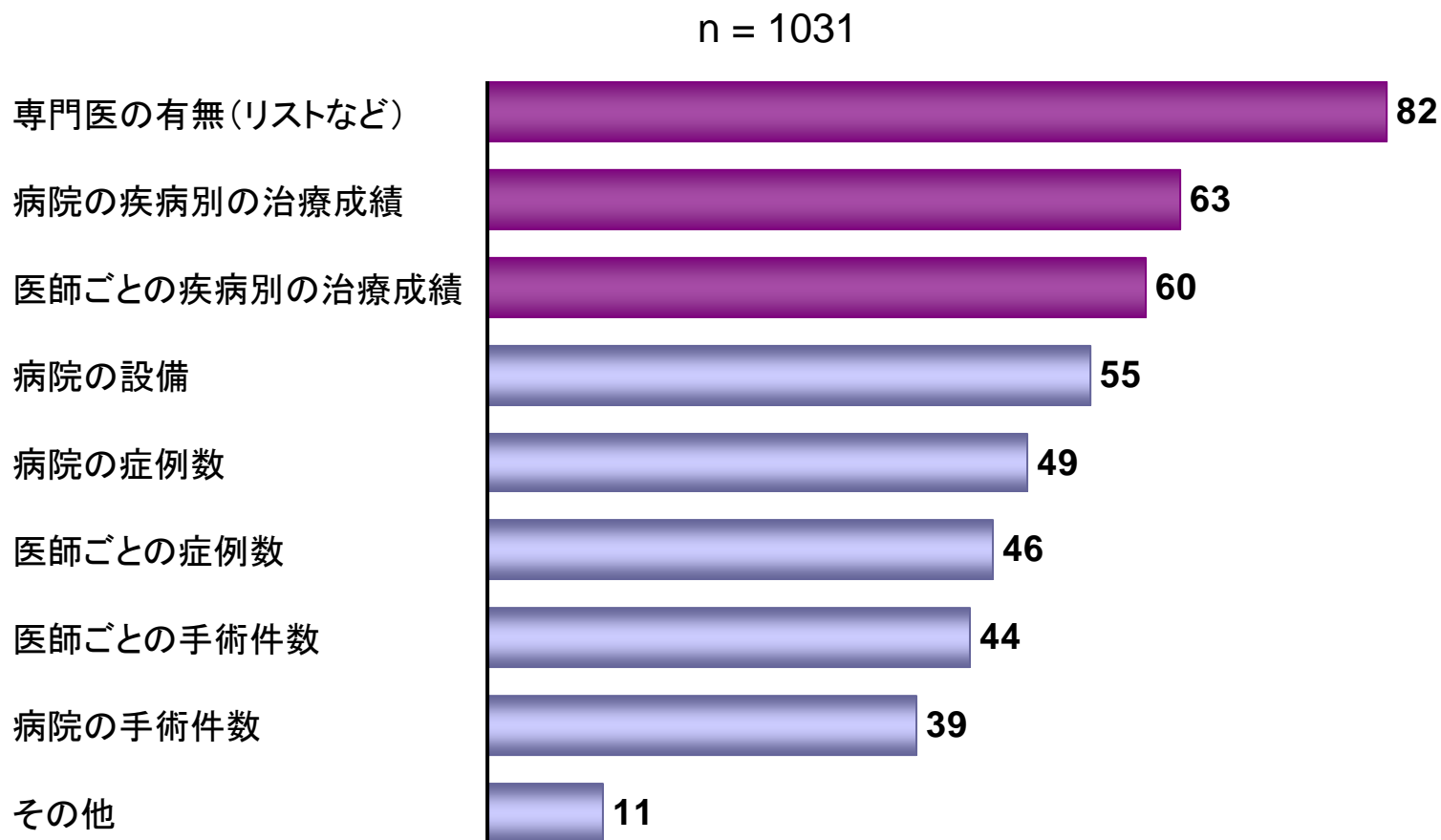
資料: 東京大学医療政策人材養成講座のデータに基づく。

* 無回答(1名)含む
** 無回答(389名)含む

がん関係者は、専門医に関する情報と、病院・医師ごとの疾病別の治療成績の情報を特に求めている

(%; 2005; 複数回答可)

Qu. これまでの診療経験から総合的にみて、患者・家族にとってどのような情報が必要だ(不足している)と思いますか

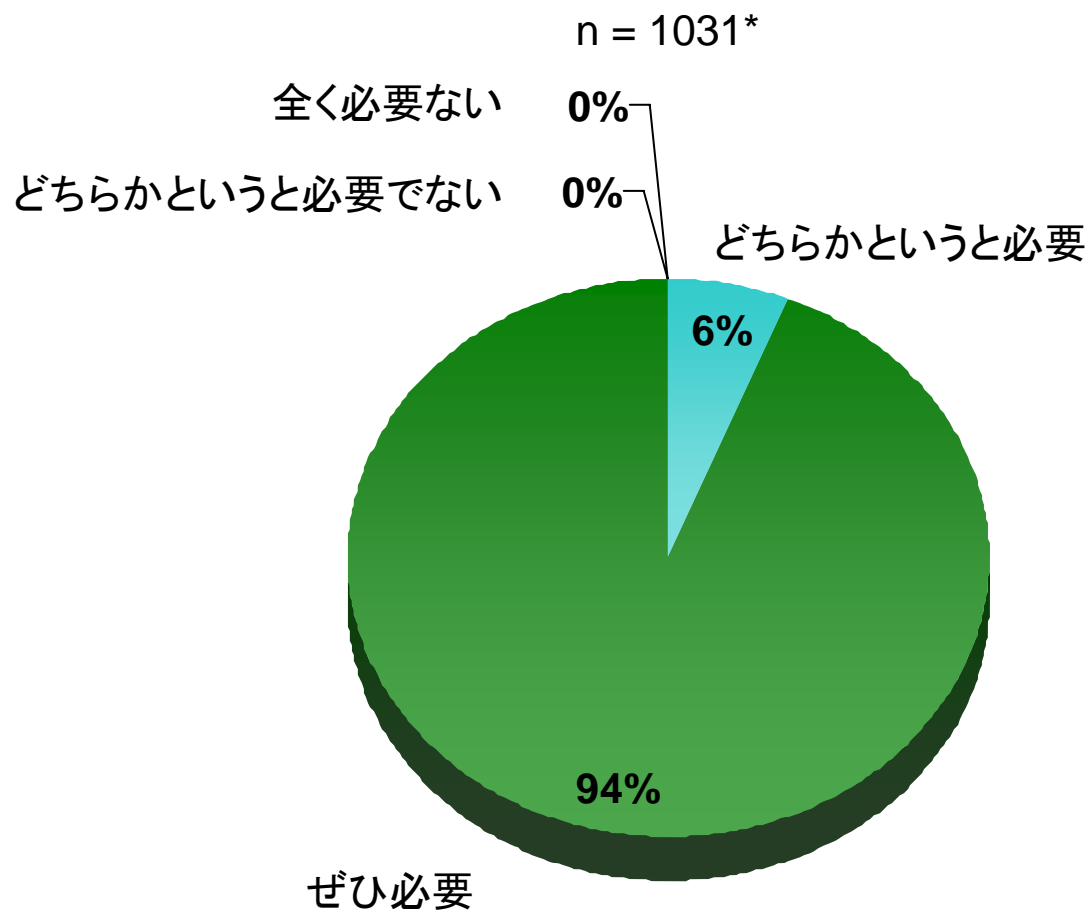


資料: 東京大学医療政策人材養成講座のデータに基づく。

がん関係者の99%が医療情報を統合する機関が必要だと考えている

(%; 2005)

Qu. がん医療に関する信頼できる情報を統合して提供する機関の必要性はどの程度高いですか



資料: 東京大学医療政策人材養成講座のデータに基づく。

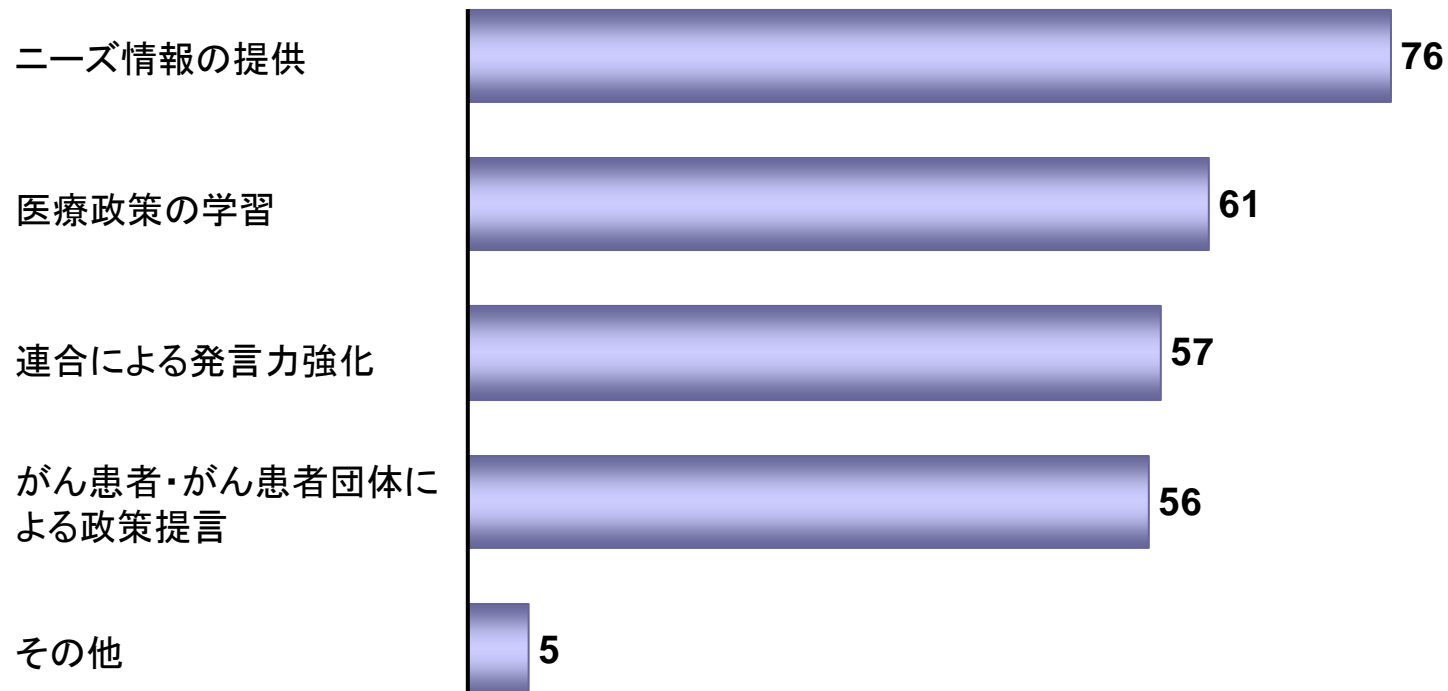
* 無回答(6名)含む

がん関係者の大半が、患者の声を政策に反映すべく、積極的な情報提供、政策提言、政策の学習、がん患者団体の連合が必要だと考えている

(%; 2005; 複数回答可)

Qu. がん患者の声を政策に反映させるために、がん患者がより積極的に行うべきことは何だとお考えですか

n = 1031



資料: 東京大学医療政策人材養成講座のデータに基づく。